

1 題材名 「思い出の宝箱をつくろう」 木彫りレリーフ作品の製作

2 目標

- (1) 生活の中で使うものにつくることに関心をもち、板材でつくることを楽しもうとする。
(造形への関心・意欲・態度)
- (2) 生活の中で使えるように、目的や用途などからつくりたいものを思い付き、図などをかいて構想を練る。
(発想や構想の能力)
- (3) つくりたいものに合うように、デザインや彫り方の工夫をして表す。
(創造的な技能)
- (4) 自分や友人の作品のよいところについて話したり、感想を発表したりして、よさや美しさを感じ取る。
(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 題材観

本題材は、小学校の図画工作の最後の作品として、これまでの学習を生かし、「卒業制作」として取り組む。小学校の思い出の場面を刻んだ、自分だけのオリジナルの宝箱をつくることで、小学校卒業後も長く使っていける大切な作品に仕上げられるようにする。彫刻の技術だけでなく、デザインの工夫をすることで、より愛着のある作品になると考える。また、思い出の写真をアイデアを考える際に取り入れることで、構図を考える上での楽しさを味わわせたい。

(2) 児童の実態

本学級は図画工作が好きな児童が多い。今までの絵画や工作の製作では積極的に教師にアドバイスを求め、新しい技法に興味・関心を示し、自らの作品に進んで取り入れることができている。児童はこれまでの学習で、彫刻刀を使用して木版画に取り組んだことがある。しかし、彫刻刀の正しい使い方や刃ごとの用途については、曖昧な児童が多い。また、これまで木彫の技法に取り組んだことはない。

(3) 指導観

木彫りの技法としては、「線彫り」の深さによる表現の違いや、「片切り彫り」などについて学ぶことで、自らのもつイメージを作品に表現できるようにしたい。また、児童が主体的に製作が進められるように、学習過程全般においてワークシートを活用し、学習計画に基づいて児童が個別に製作時間の配分を決め、自らの思いを表現するためにこだわりたい作業に時間をかけられるようにする。さらに、活動中は、自由に友人と交流できる場を設定する。友人同士で彫り方や色彩の組み合わせについて、お互いに教え合ったり、よいものを取り入れたりすることは、言語活動の充実に関する指導事例集（平成23年）第2章の（2）イの「感じたことを言葉にしたり、それらの言葉を交流したりすること」という言語活動の充実につながっている。そのことで、児童がより自分の思いや願いを作品に生かすことができると考える。完成時には、鑑賞会を開き、お互いの作品のよさを認め合う場としたい。

4 題材の評価規準

造形への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
進んで造形的な活動に取り組み、作品をつくる楽しさを味わおうとしている。	目的や用途などからつくりたいものを思い付き、彫り方や模様、色彩などを考えている。	彫り方、デザインや色彩、ニス塗りを工夫して、効果的に表わしている。	友人の作品の彫りや模様、色彩のよさや美しさを感じ取っている。

5 指導計画 （7時間扱い・本時は第4時）

次	時間	主な学習活動	主な評価
第1次	1	○彫刻の技法について知り、試し彫りをする。 ・「線彫り」と「片切り彫り」について動画で確認する。 ・練習用の板を彫り、技法を確かめる。	○「線彫り」、「片切り彫り」の彫り方にについて意欲的に学ぼうとしている。 (造形への関心・意欲・態度)
	2	○アイデアスケッチをする。 ・6年生時の思い出の写真を選び、写真から箱のふたのデザインを考える。 ・アイデアスケッチは2~4枚かいて検討する。	○想像を広げ、自分の思いや願いを下絵に表している。 (発想や構想の能力)
	3	○下絵を板に写す。	○進んで製作に取り組み、作品をつくる楽しさを味わおうとしている。 (造形への関心・意欲・態度)
	4	○板を彫る。（本時） ・発想の広がりを促すため、友人の作品の工夫点を見合い、参考にする場を設定する。 ・彫り方の確認をするときには、彫り方の動画を見る。	○彫り方や模様を工夫して、効果的に表している。 (創造的な技能)
第2次	5		

	6	<ul style="list-style-type: none"> ○色の組合せを考えながら着色をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチを基に、水彩絵の具で着色をする。 ○ニス塗りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○色の組合せを工夫して効果的に表している。 (創造的な技能)
第3次	7	<ul style="list-style-type: none"> ○できあがった作品の鑑賞会をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・友人の作品のアイデアや彫り方の工夫に注目する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友人の作品の表したかったことや彫りや模様のよさに気付いている。 (鑑賞の能力)

6 本時の学習

(1) 目標 自分の思いに合った表現ができるよう、彫り方を工夫して表すことができる。

(2) 準備・資料

<教師> 彫刻刀の種類と彫り方が分かる掲示物、彫り方の動画、電子黒板、パソコン

<児童> 彫刻刀、ワークシート、軍手（片方）

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 彫り方を工夫して「思い出の宝箱」の彫刻をしよう。 </div> <p>2 箱のふたになる板を彫刻刀で彫る。</p> <p>○下絵の線に沿って彫る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線彫り ・片切り彫り <p>思い出に残る宝箱にしたい</p> <p>友人との関わり</p> <p>思い 願い イメージ</p> <p>新しい表現方法</p> <p>イメージに合った表現方法</p> <p>思いを形に表現する</p> <p>3 本時の学習を振り返り、次時の学習の確認をする。</p> <p>○ワークシートに本時の振り返りを記入し、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の流れや進め方について確認する。 ○グループで活動し、友人と関わりながら製作するように呼びかける。 ○ワークシートの製作計画で、本時に自分が取り組む内容について確認するとともに、数人に発表させることで、周囲の進み具合についても確認できるようにする。 ○活動場所の確認や、移動するときの注意点を確認して、児童が安全で効率よく作業できるようにする。 ○板を押さえる手に軍手をつけて彫るよう助言する。 ○彫り方を確認したいときは、動画を自由に見られるように、場の設定をしておく。 ○机間指導をしながら、児童一人一人の技術的な支援や称賛を行う。 ○製作途中で、デザインに変更を加えたい箇所が出てきたときには、ワークシートの計画に書き加えるように指示をして、新たなイメージが明確になるようにする。 ○製作に熱中しても、彫刻刀の安全な使い方に配慮するように助言する。 <p>○彫り方や模様を工夫して、効果的に表している。 (創造的な技能) (観察・作品・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○線彫りだけで、彫りの工夫が見られない児童には、対話を通じて完成のイメージをふくらませるとともに、どのように彫り進めていくのか考えられるようにする。 <p>○本時の活動の進み具合と製作計画を確認し、次時の活動の見通しがもてるようする。</p> <p>○本時の学習や児童の活動の様子を話し、振り返りを何人かに発表させることで、次時の学習の意欲付けとなるようにする。</p>